

グループ構造改革の実行

セガサミーグループでは、中長期的な視点のもと、グループ全体の収益構造の見直しを図る取り組みに着手しました。既存の各事業における課題解決に取り組むとともに、新規事業領域も含めた成長分野への経営資源の投入を可能とする体制を整備するなど、収益力の向上を目的とした施策を立案・実行を進めています。

2015年3月期中におけるグループ構造改革に向けた主な取り組み

- 1. 「グループ構造改革本部」を設置** (2014年5月9日付)
 - 本部長：代表取締役会長兼社長 里見 治
- 2. グループ構造改革に関する方針発表** (2014年10月31日付)
 - 3事業グループへの再編
 - 固定費削減目標の設定
 - セガにおける構造改革担当役員の選任
- 3. セガにおける構造改革の実施** (2015年1月30日付)
 - 国内における事業の効率化
 - 希望退職者の募集
 - 海外における事業の効率化
- 4. グループ再編の実施** (2015年2月12日付)
 - 2015年4月1日付で、グループ内の子会社再編を実施
 - さらなる事業再編を進めるための施策として、グループ内組織の再編を決定

構造改革実施に伴う業績への影響

2015年3月期実績における
特別損失のうち構造改革関連費用

約**70**億円

2016年3月期計画における
固定費削減効果

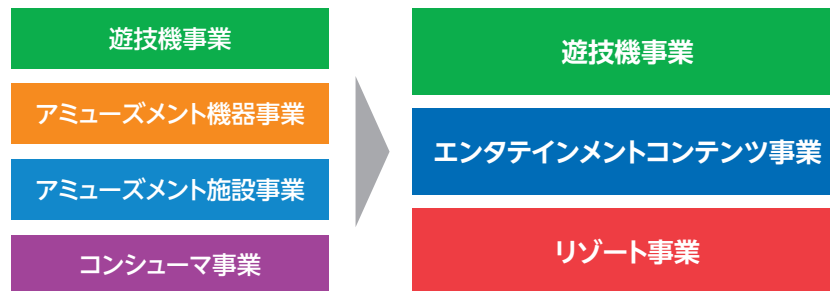
約**60**億円 (2015年3月期対比)

収益性の抜本的改善を目指し、3つの事業グループへ再編

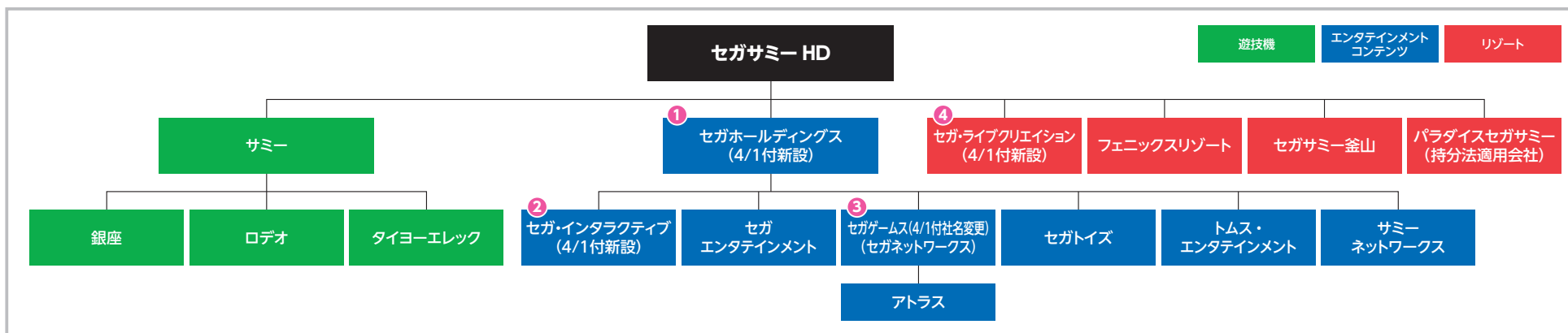
重点事業・分野と定めた国内外のデジタルゲーム分野やリゾート事業などの新規領域を含めた成長分野へ経営資源を集中させるための体制の整備に加え、不採算・低採算事業・分野の撤退・縮小、および規模の適正化、業務効率の向上や意思決定の迅速化につながる取り組みを進めています。

収益性の抜本的改善を意図し、遊技機事業、エンタテインメントコンテンツ事業、リゾート事業の3事業グループへ再編。エンタテインメントコンテンツ事業を中心としたグループ内組織再編は、グループ各社の担当事業領域を明確にするとともに、今後も継続的にグループが保有する事業の見直しを行い、さらなる事業再編を進めるために実施するものです。

■ 3事業セグメントへの見直し



主なグループ会社および事業領域



- 1 「セガホールディングス」を新設し、「セガホールディングス」傘下に、エンタテインメントコンテンツ事業を集約
- 2 アミューズメント機器分野を担う、「セガ・インタラクティブ」を新設
- 3 「セガ」と「セガネットワークス」を合併し、パッケージゲーム分野、デジタルゲーム分野を担う「セガゲームス」に社名変更
- 4 「セガ」の大型施設運営ノウハウをリゾート事業に活用するため、エンタテインメントパーク事業の一部（東京ジョイポリス、オービィ横浜など）を分割し、「セガ・ライブクリエイション」を新設した上で「セガサミーホールディングス」直下に移す

構造改革の今後の取り組み

2015年3月期に実施したグループ構造改革に関しては、固定費の削減など、一定の成果を挙げることができる見通しです。構造改革における今後の取り組みとして、各事業のコスト管理を徹底し、各事業やプロジェクトにおける、開始または撤退に関する基準の整備を迅速に行ったうえで、事業ポートフォリオ全体としての収益力最大化を図っていきます。

新セグメントについて

遊技機事業

グループ内の位置づけ

事業戦略の方向性

当社の強み

グループ収益の柱

- 市場環境、規制環境への対応
- 幅広いユーザー層に向けた製品開発
- リユースなどの取組強化による収益改善
- 高度な開発力
- 高い実績を誇るタイトル・IP 群
- パチンコ・パチスロ共にトップクラスの業界シェア

エンタテインメントコンテンツ事業

グループ内の位置づけ

事業戦略の方向性

当社の強み

短中期的成長分野

- デジタルゲーム分野におけるさらなる収益力の向上
- 構造改革による不採算事業の解消と既存事業の収益力回復
- 分社化による各事業分野の意思決定迅速化
- セガグループの高度な開発力
- マーケティング支援ツール Noah Pass
- 高い実績を誇るタイトル・IP 群

リゾート事業

グループ内の位置づけ

事業戦略の方向性

当社の強み

中長期的成長分野

- 国内 IR 参入に向けた先行投資
- 海外 IR 施設の開発・運営
- テーマパーク・リゾート施設の運営力強化
- フェニックスリゾート各種テーマパークの開発・運営実績
- 海外 IR 施設の開発・運営経験
- 強固な財務基盤

